

多摩大学 飛騨高山アクティブ・ラーニングプログラム2021

高山市久々野町における フォトジェニックの提案

～インスタ映えするオブジェ制作とその効果の検証

多摩大学 経営情報学部

白井 ほのか

本日の発表内容

1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要
2. 提案したオブジェクト
 - (1)大きなさるぼぼ
 - (2)ハーバリウム
 - (3)撮影用カメラスタンド
 - (4)リンゴの木のパネル
3. 成果と感想
4. 今後に向けて

1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

飛騨高山アクティブラーニングプログラムとは

岐阜県高山市久々野町×多摩大学の
連携プログラム

目的

地域の魅力や新たな資源の発掘と情報発信。

テーマ

久々野地域でだれもが思わず写真を撮り、
SNS 等で発信したくなるようなフォトジェニックス
ポットづくり。

1チーム4-5人の縦割りの班4つ
4個のオブジェクトの提案！

1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

久々野町について紹介



- 2005年に高山市に合併。地区内の人口は、約3,300人。
- 高山市随一の農作物の出荷量を誇る。昼夜の寒暖差が激しい気候を活かした栽培（特にリンゴ、桃、トマト、ほうれん草など）
- 森林が多く、木材加工業者も多数存在。
- 自然溢れるまち。



1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

活動内容

春学期

6月14日に事前学習。
6月28日から6月29日@リモート



- 久々野町の皆さんと意見交換
- 現状分析
- 中学生と交流
- オブジェクトの決定



報告内容

1. 13日の事前学習の振り返り
2. 学生による久々野町の分析
(9つのフレームワーク)
3. 考えたオブジェ
4. 設置に向けた今後の動き



1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

久々野町の現状分析 その1

現代につくられた箱物資源	生活支援資源	地域の物語資源
道の駅なぎさ、飛騨川河川公園、スキー場、久々野支所、多種類の椅子がたくさん置いてある美術館	飛騨川河川公園、木材の加工企業 林業・木材業、食品加工業 果樹園、農園	氷菓
歴史的建築物資源	県民性	地域イベント
久々野歴史民俗資料館、 堂之上遺跡	温厚、優しい	フォトコンテスト、 ひまわり畑、花火大会
自然資源	食べ物資源	伝統工芸物
あらかぎ湖、飛騨川、飛騨富士 位山、高屹山、舟山溪流、山と川 女男滝、紅葉、蛍、高山植物	リンゴ、桃、トマト、ほうれん草、鮎 飛騨牛、牛乳、アップルパイ、団子 朴葉味噌、抹茶、豆腐、水	梅の実、小屋名しょうけ 有道しゃくし、木工品

(出所) 筆者作成

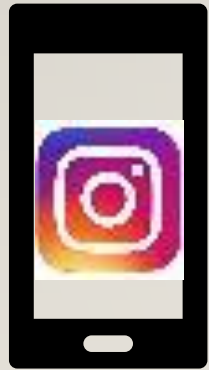


1. 飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

久々野の現状分析 その2

インスタグラム…写真投稿サイト(SNS)

実際のインスタグラム(#instakuguno)の投稿



1.飛騨高山アクティブラーニングプログラムの概要

活動内容

秋学期 10月31日から11月2日の2泊3日
@高山市久々野町

- 仮設置後の検証。
- 久々野町の自然スポットの見学。
- 久々野中学校3年生と意見交換。
- 設置場所の選定。
- 提言のプレゼンテーション。



2.提案したオブジェクト

提案したオブジェクト

- (1)大きなさるぼぼ
- (2)ひまわりのハーバリウム
- (3)撮影用カメラスタンド
- (4)リンゴの木のパネル

最初の提案
仮設置後の改善案を
紹介！

2.提案したオブジェクト

(1)大きなさるぼぼ

(2)ひまわりのハーバリウム

(3)撮影用カメラスタンド

(4)リンゴの木のパネル



2.提案したオブジェクト

(1)大きなさるぼぼ

提案

- 高さ70cm、幅50cmの大きなさるぼぼを提案。
- 多くの人が風景を背景に、ぬいぐるみを撮影し投稿している。



課題

- “久々野らしさ”が足りない。
- 「一緒に写真を撮ろう！」という意識に到達しない。

解決策

“久々野らしい”法被で、“久々野らしさ”を生み出す。

支所・道の駅

着せ替え：デフォルト



- ・久々野のリンゴを前面PR
- ・すべてにおいて対応できる衣装

久々野駅

着せ替え：駅員服
鉄道マニア（カメラ）



- ・高山本線沿線を駅員服でPR
- ・鉄道マニアが多く撮影スポットが多い

中央公民館

着せ替え：日替わり



- ・地域の住民、産業、店舗等の衣装で地元を盛り上げる。

総合体育館

着せ替え：ジャージ



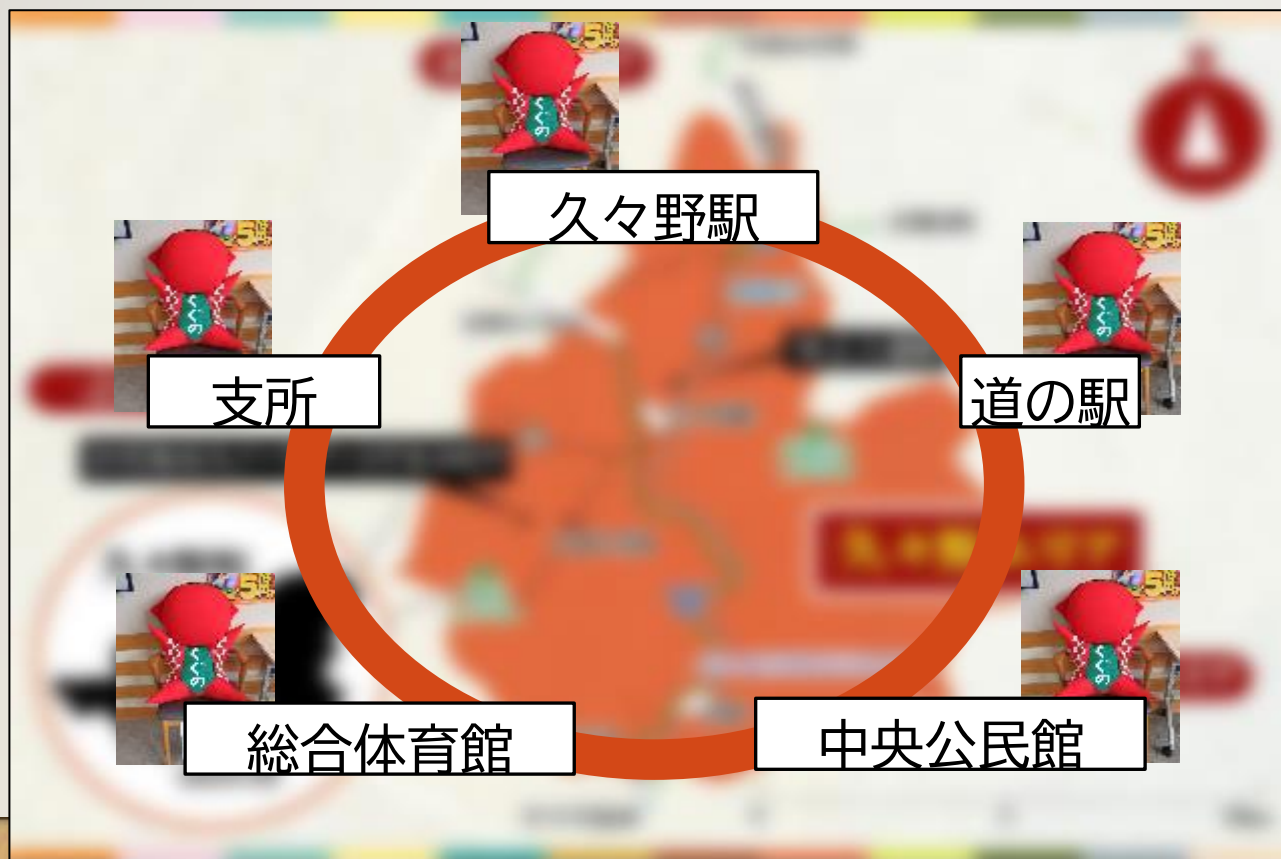
- ・総合体育館には試合が行われ県外からくる選手が多い。

4つのバリエーションでPR・・・

解決策

写真を撮りたくなるような場所で
コースを組む

中学生と考えた



2.提案したオブジェクト

(1)大きなさるぼぼ

(2)ひまわりのハーバリウム

(3)撮影用カメラスタンド

(4)リンゴの木のパネル



2.提案したオブジェクト

(2)ひまわりのハーバリウム (販売、体験教室)

提案

- アルコピアスキー場で開催される、ひまわり園が有名。
- 希少な”ひまわりのハーバリウム”の

製作体験することで思い出になる。



課題

- 開園時は忙しく、体験教室という形は難しい。
- 他のおみやげに比べ、価格が高い。



解決策

付加価値をつける

■ ススキをハーバリウムの資源に！

- ・ スキー場利用のために毎年刈っている
- ✓ カラーバリエーションによる選ぶ楽しさを高める
- ✓ スキー場利用のために刈らなければならないススキを、そのまま経営資源として利用できる
- ✓ 堂ノ上遺跡の竪穴式住居を連想させる

■ オーダーメイド

- ・ 自分の好きな花を選ぶことが出来る
- ・ 体験より人件費が削減できる
- ・ 在庫を抱えなくて済む



2.提案したオブジェクト

- (1)大きなさるぼぼ
- (2)ひまわりのハーバリウム
- (3)撮影用カメラスタンド**
- (4)リンゴの木のパネル



(3)撮影用カメラスタンド

提案の背景

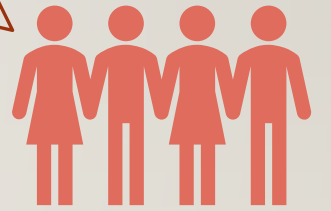


久々野町
在住の家族

四季の移り変わりがきれい。
高山植物や自然は久々野の魅力。

潜在のきれいな景色を活用、景観を維持したい。
高山市を訪れる人は中部地方の人が一番多い*ので、
家族写真が撮れるように、最適な撮影スポットを提示したい。

*約60% 高山市観光統計(2020年)



大学生



インスタ写真
(#instakuguno)

カラフルな写真が多い(ひまわり、紅葉、雪)
⇒景色に魅了されている人が多いのではないか。

四季折々の季節を、同じ画角で撮れるオブジェを制作したい！

2.提案したオブジェクト

(3)撮影用カメラスタンド

提案

- スタンドがあれば、雄大な自然を前に思わず写真を撮りたくなる。
- 季節ごとに景色が異なることをPRできる。



課題

- 使い方の説明がないと分からない。
- 設置場所を考えることと、味気なさの解消。

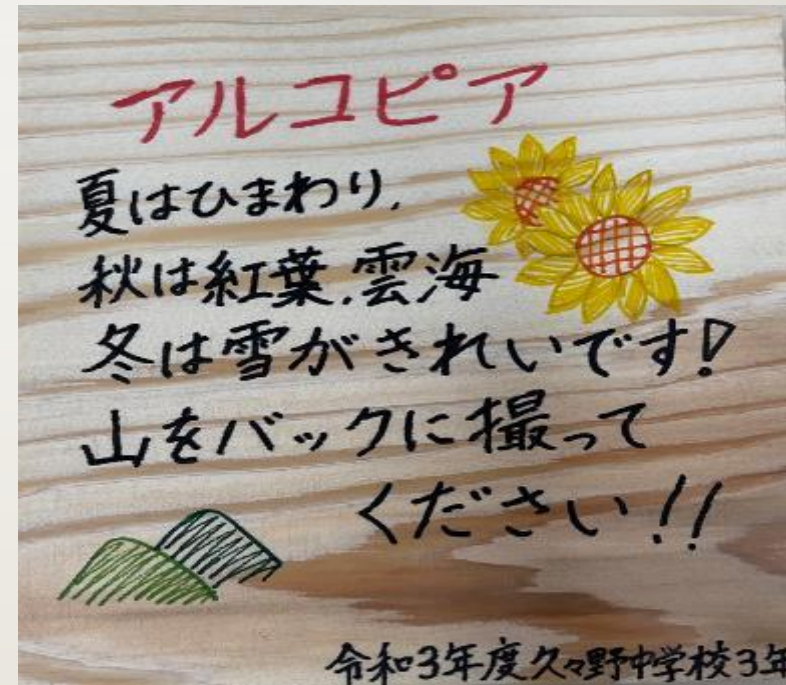
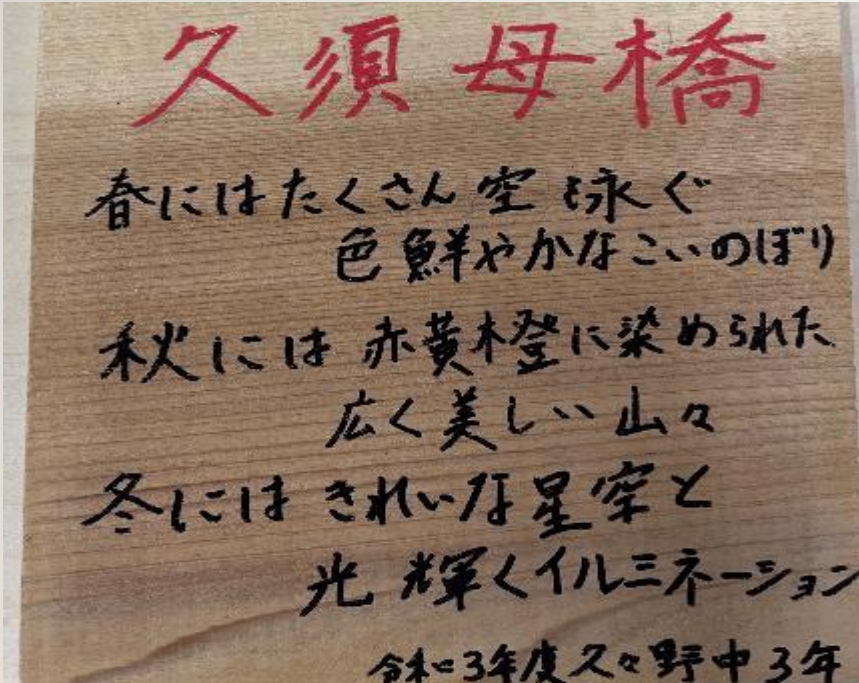


自撮りに比べ
人と風景がきれいに収まる！

2.提案したオブジェクト

解決策

使い方や名所の案内板を製作



- 名所のポイントをたくさん知っている地元の中学生に制作してもらう
- 久々野は木材が有名であるということのPRにもつながるのではないかな。

2.提案したオブジェクト

イメージ図



中学生が考えた文章を
レーザーで板に掘った
ものを設置する予定

2.提案したオブジェクト

- (1)大きなさるぼぼ
- (2)ひまわりのハーバリウム
- (3)撮影用カメラスタンド
- (4)リンゴの木のパネル**



2.提案したオブジェクト

仮設置時
メディアに多数掲載！

(4)リンゴの木のパネル@道の駅なぎさ

提案

- 「久々野はリンゴが名産」というPRになる。
- メッセージを書くことで、地域と観光客がつながりを持てる。
- 道の駅飛騨街道なぎさにて、リンゴ購入者にメッセージカードを渡す。



課題

- 道の駅での業務の負担が増加してしまう。
- デザインがシンプル過ぎるので工夫が必要。

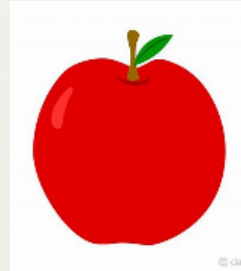
2.提案したオブジェクト

解決策

- ・デザインの高度化。
- ・季節ごとに、デザインを変更する。

春

リンゴの花型の
メッセージカード



秋

赤いりんごの
メッセージカード



リンゴの成長過程

×

春夏秋冬

夏

青いリンゴの
メッセージカード



冬

枯れ木を表現
木を利用したリンゴ絵馬



2.提案したオブジェクト

解決策

パネルを設置企業、団体、個人が出資する。



道の駅



A-miu



リンゴ園

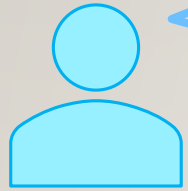


インスタグラムでの広告を行う



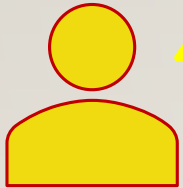
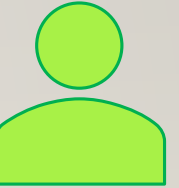
3.成果と感想

参加した学生の感想



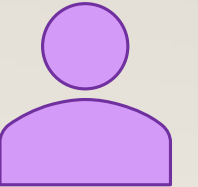
交流した中学生が地域活性に興味を示してくれて嬉しかった。

写真で魅力を伝えることは難しいと思った



現地で自然資源を見てから、思い浮かんだアイデアも多かった。
自分が観光に訪れた時に何を重視するか、
第三者目線で考えることを意識したい。

具体性のある提案を心がけていたので
実現を見込むことができて良かった。



4. 今後に向けて

久々野町からのフィードバック

地域で生まれ育った中学生の地域活性化に対する意識が生まれるきっかけをつくることができた。

本プログラムにおける今後の予定

- ✓ 各種考えたSNS戦略を実行。
- ✓ 検索ツール#instakuguno を用いて、Instagramへの投稿数が増えるか検証。
- ✓ 投稿数が増えれば、オブジェクトのさらなる設置する、投稿数が変わらなければ、別のエリアにしてみるなど工夫する。

最後に ～久々野町のみなさまへ

今年度も私たち学生にとって、貴重な経験と実学の環境、
さらに様々なご支援をいただき、ありがとうございました。

引き続き、多摩大学では高山市久々野町の、

「久々野が久々野であり続ける」

地域づくりに貢献していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました